芸術文化ゾーン（旧県立美術館の利活用を含む）に係るパブリックコメント一覧

意見者	No.	区分	意見の概要	市の考え方・対応
1	1	旧県美の利活用	旧平野美術館は、公立美術大学の展示場所として確保することに決まったことではなかったのか？　旧平野美術館へ行っても、いつも閉まっており、何の行事もやられていないのが現状である。耐震補強工事が必要なため、その工事が終わるのを待ってでもいるのだろうか？　現状は、「廃墟」としか言いようが無い。 本当に、公立美術大学が展示場所としての必要性を訴えるのなら、新屋の景観の良い場所に移設してはどうだろうか？　いつまでも手付かずのままでは無駄になってしまっている。	中心市街地に文化施設を集積し、各施設の特色を活かしながら役割分担や連携を図ることで、市民の活動環境を整え、広小路・仲小路から千秋公園に至る一帯を「芸術文化ゾーン」として充実させたいと考えております。 こうした本市のまちづくりの観点から、旧県立美術館については、現県民会館所在地に県・市連携文化施設を整備することを前提に、その立地環境と内部空間の魅力を生かし、（仮称）芸術文化交流施設として市民の文化活動や交流の場として活用することを検討しております。
1	2	旧県美の利活用（取壊し）	旧平野美術館の移設後の跡地は、更地にして現状復帰し、公園としての本来の機能を持たせるのが最も良い方法であると考える。 公園は、本来、市民の「憩いの場」であるべきである。気候の良い日には、OLやサラリーマンが昼食の弁当を食べたり、軽い運動をしたりするのが有効な活用方法であるべきはずであるが、千秋公園は、今までそれを排除してきている。全国的に見ても市民の「憩いの場」として機能していない珍しい公園である。私は、このような公園をどこでも見たことが無い。箱物が景観を邪魔していて公園らしさを微塵も感じさせない。県民会館や明徳図書館の移転だけでなく、私立高校二校と専門学校の移転も視野に入れて検討する必要があると考える。更には、公務員宿舎の敷地を更地にして有効活用の材料として欲しい。中土橋を渡ったらそこは公園であるべきはずで、お堀の内側に箱物があってはならないと考える。是非ともご検討願いたい。	No.１に同じ。 ご意見は今後の参考といたします。
2	3	旧県美の利活用	その街の文化度とは、街並みに表れているのではないでしょうか。歴史、謂れある建築物を保存し、それを今の時代に合わせ活用し、人が集い語り合う場が必要です。もしも秋田記念館が現存していたら、あの千秋公園のエリアは美しい魅力的なエリアとなっていたでしょう。 旧県立美術館もまた、藤田嗣治と平野政吉との出会いがあったからこそ大壁画「秋田の行事」が描かれ、その作品の為にあの独特な形の建築が生まれたのです。そもそもあの作品を新美術館に移転させたことも、未だに納得できない県民は多いのではないでしょうか。せめてこれからは、これらのストーリーを語り継ぐ為にも、旧県立美術館のあの空間を生かし、様々な文化の交流の場として大いに利用すべきと思います。 同じ北東北でも、盛岡弘前は歴史ある建築物を残しながら、散歩して楽しい、美しく情緒ある街並みを築き上げています。 秋田はもう、スクラップアンドビルドをやめて頂きたい。壊してしまったらもう二度と、その風景は戻らないのです。	旧県立美術館については、県・市連携文化施設の整備を前提に、その外観を生かしつつ、秋田ゆかりのアーティスト等のアーカイブ保存、アーティスト・芸術家等のレジデンス（公開制作）と交流の場、市民による文化活動の発表や美大生の作品展示等ができるスペースなどとして活用を検討しております。 周辺の他の施設との役割分担、連携により「芸術文化ゾーン」として面的に充実させるため活用したいと考えております。

芸術文化ゾーン（旧県立美術館の利活用を含む）に係るパブリックコメント一覧

意見者	No.	区分	意見の概要	市の考え方・対応
3	4	その他	中心市街地に文化施設を集積させることは賛成ではある。 間違ってもこれ以上、郊外に施設を作り、街を希薄化させてはいけない。	人口減少社会における本市の将来を見据えたまちづくりの方向性から、中心市街地への県・市連携文化施設の整備やそれを前提とした旧県立美術館の活用により、芸術文化ゾーンとして周辺を面的に充実させることが望ましいと考えております。
3	5	旧県美の利活用	ただし、これからの人口減社会の中で、生産年齢人口一人当たりの公共施設の維持費・更新費は2040年までに倍以上なることが予想される。 そんな中で、あれもこれもは出来ない。 であるならば秋田市に美術系の施設をつくる意味を考えなければならない。 例えば、実績のある吹奏楽の聖地としていく考えや、芸術からは離れて、お酒をはじめとした発酵食品の学び体験施設にする考え方もあるのではないか？ 現代アート系は十和田や金沢が有名で、制作場所としては瀬戸内であったり、山口であったり、様々な場所がある中で、クリエイターがあえて秋田の施設を選ぶ理由はあるのだろうか？ またあえて選んでもらって制作をしてもらうにあたっての施設や制度の維持について、税金を投入することに市民のコンセンサスは得られているのだろうか？最初の数年で半端にやめたり縮小することになるのならば、むしろ、最初からやらないほうがマシではなかろうか？	ご意見を参考とし、旧県立美術館等の運営・管理のあり方について検討を進めてまいります。
4	6	旧県美の利活用	中心市街地に文化施設を集約するという県・市の方針には概ね賛成であるが、旧県立美術館の利活用案に対してはあまり賛同できない。レジデンス機能に関してはアトリエももさだを利用すればいいと思うし、交流ギャラリーについては現県立美術館や美大サテライトセンターで代用できる。 私は旧県立美術館の建物を、金足にある県立博物館の別館として利活用してほしいと考えている。現在、県立博物館には県民からの寄贈品が多数寄せられ、収蔵品があふれ返っていると聞いている。 中心市街地に県立博物館の別館を設け、収蔵品を分散させれば、この問題も少しは解消できるのではないだろうか。また、県立博物館は非常に交通の便が悪く、マイカーでなければアクセスしにくい。そこで、旧県立美術館の建物を県立博物館の別館とし、本館との連動企画展などを実施すれば、別館の展示を見た人が本館にも足を運んでくれる可能性が高まると考えられる。さらに、旧県立美術館の界隈にある現県立美術館や市立佐竹史料館、あきた文化産業施設「松下」との合同企画を行うことで、各施設へより多くの来場者も見込めるようになる。県・市の利活用案にあるアーカイブ・情報発信機能は、県立博物館の別館にその役割を担ってもらうことができる。 「芸術文化ゾーン」という名称から、文化＝芸術というイメージが強いのだろうと思うが、文化は芸術のみならず、歴史や科学などもっと広範囲の分野を内包している。そういう意味でも、秋田市の中心市街地に県立博物館の別館を設けることが、旧県立美術館のより有意義な文化的利活用につながると私は考える。	旧県立美術館については、アーティストが本市に一定期間滞在しながら大規模な作品を公開制作するレジデンス機能など、中心市街地から千秋公園に至る一帯を「芸術文化ゾーン」として面的に充実させることを視野に、周辺の文化施設と役割分担を図りながら利活用することを検討しており、他の施設で重複しない機能として検討しております。 「文化」と「歴史」は、どちらかが一方を包含するものではなく、相互に作用するものと考えております。 市民の活動の場は、「芸術文化ゾーン」とそれとつながる形で千秋公園の歴史を生かすなど、文化と歴史が連動するように取り組んでまいります。

芸術文化ゾーン（旧県立美術館の利活用を含む）に係るパブリックコメント一覧

意見者	No.	区分	意見の概要	市の考え方・対応
5	7	旧県美の利活用	Perfuming arts center akita／パフォーミングアーツ・センター・あきた 旧県立美術館利活用～芸術文化交流施設の略称＝PACEA（パセア） 美術館という二次元ファインアートから、リノベーションしてパフォーミングアーツという三次元の拠点として生まれ変わった。 早朝から夜遅くまで事務局には灯がともる（1階運営事務局） リノベーションした類似例としては 神田：アーツチヨダ3331（旧錬成中学校） 横浜：BankART Studio NYK（旧日本郵船湾岸倉庫） お濠の向こうに見える三角屋根の建物（旧県美）に人々が吸い込まれていく。 ここでは、アメリカ・韓国・東京などから舞踏手やコンテンポラリーダンサーが集まり公開レッスンが行われている（秋田の行事があった大空間）。取り囲む回廊（3階）からは、市民やダンサーのタマゴ達が取り囲んで見降ろす。 地元秋田で回を重ねる「あきた全国舞踊祭モダンダンスコンクール」の参加ダンサーも本番を控えリハーサル中。 2015年から続く「踊る。秋田」のワークショップが開催され、郷土が生んだ舞踏家・土方巽の舞踏譜に市民が挑戦している。 竿燈祭りの担い手達（幼若・中若）は、年中ここで鍛えることができ将来の大若をめざし、放課後生徒や指導者が集まる。当然、観光客も見学でき夏の竿燈祭りのPRにもつながる。 秋田県内の伝統芸能関係者が「なかいち広場」の本番前ここで稽古をしている。県内各地から秋田市に出張しPASA（パサ）が楽屋代わり・道具保管場所として機能している。 3階の旧展示スペースには県内の17の国指定重要無形民俗文化財紹介、ユネスコ登録「山・鉾・屋台行事」のインフォメーショングラフィックス展示、映像で「踊り」を楽しむことができる。2階の旧展示室は、舞踏の創始者・土方巽アーカイブ。展示解説では、公立美大のアーツ＆ルーツ専攻の協力をえて秋田県の「祭り＝身体表現」を知るセンターとして拠点となっている。 ここにくると何時も「パフォーミングアーツ＝踊る」に触れることができるのだ。 特に海外からのダンサーと身近に交流できる場は、英語教育の課外体験や国際教養大学生が秋田市中心市街地に遊びにくるスペースともなっている。 特に、「土方巽＝舞踏の聖地」としての魅力を感じるため、わざわざ海外から秋田に来る。このインバウンド効果が他都市には絶対にマネをすることができないのだ。 旧県立美術館利活用～芸術文化交流施設　の日常を想像してみました。これを意見・提案とします。	No.３に同じ。 ご意見は今後の参考といたします。

芸術文化ゾーン（旧県立美術館の利活用を含む）に係るパブリックコメント一覧

意見者	No.	区分	意見の概要	市の考え方・対応
6	8	その他	資料の芸術文化ゾーンに関する経緯を読み進めますと、「千秋公園と連携した城下町ルネッサンス」が既に存在したところに、平成27年９月に県・市連携文化施設整備方針が加わり、「芸術文化ゾーン形成」という流れが読み取れます。もちろん個人的所感です。 この、県・市連携構想にはメリットがある反面、デメリットも多く存在するのではありませんか。整備計画案15頁からは、県・市の連携を肯定する記述が目立ちますが、文化関係者からは、県・市が連携しなければならない理由が希薄との声も聞きます。改革案には連携のメリットを記載するのと同様に、連携のデメリット等についても記述すべきではありませんか。使い続けることが可能な文化会館の放棄は大きなデメリットです。	長期的な視点のもと、今後の県･市を取り巻く厳しい財政状況や人口減少等の状況を鑑みると、県・市が共同で、二つの施設を一つに集約する県・市連携文化施設の整備を進め、施設の運営管理にもあたることは、それぞれ別々に整備を行うよりも、ホールの一体利用など、施設の広範な利用が可能となるほか、整備費の大幅な縮減も図られるなど、行財政改革の観点からも有用な取組であると考えております。 市文化会館については、大規模改修により引き続き使用するべきとの意見もありますが、ある程度施設の寿命を延ばすことはできても、舞台や客席空間の拡充など、施設の機能を抜本的に高めることは困難であること、将来的には建て替えがくることも見据え、県・市連携文化施設に機能を継承すべきと考えております。
6	9	その他（文言）	因みに経緯４行目だけ「文化芸術ゾーン」と単語を入れ替えた理由が不明です。 「文化芸術祭」は日本語としておかしく、「芸術文化祭」が正しいのです。	ご指摘の箇所については、平成27年度に策定した「県民会館・市文化会館の建替による県・市連携文化施設整備方針」の記載を引用した部分であり、今年度取りまとめを進めている「県・市連携文化施設に関する整備計画」においては、「芸術文化」に文言の統一を図っております。
6	10	その他	別紙２に掲載の通り、中心市街地に素晴らしい公園があることを秋田市民は誇りに感じています。同時にそれは大きな財産であり、市民と行政が手を取り合って守るべきものと思料します。 しかしながら、２つのホールを有する文化施設を建設するにはあまりにも狭い土地、音響特性を犠牲にしなければならない高さ制限（25mと自主規制？）、中心市街地の千秋公園の景観保護などを考えますと、県民会館のある場所は県・市連携文化施設の建設適地とは考えられません。 狭い土地に建設するために、保存樹の枝や根を切断して鋼矢板を地下２階まで打ち込み、土留め支保工をしながら徹底的に地下水を抜く難工事です。そのために建設単価の大幅上昇、保存樹を含む自然破壊は避けられません。そこまでして県民会館の敷地にこだわるより、他の建設適地を探す方が県民・市民のためになるのではありませんか。 （添付図面：略）	交通アクセスやまちづくりなど、様々な観点から建設予定地を選定したものであり、整備計画（案）のとおり建設予定地への施設整備は可能なことから、音響特性を犠牲にしているとは考えておりません。また、設計にあたっては、施設の外観等について景観に配慮してまいります。 また、建設予定地である県民会館所在地は、交通アクセスの観点、周辺施設との連携やまちづくりの観点から適地と考えております。千秋公園の入り口としても相応しい外観の建物にできるよう努めるほか、保存樹についてもそのまま残すように整備したいと考えております。

芸術文化ゾーン（旧県立美術館の利活用を含む）に係るパブリックコメント一覧

意見者	No.	区分	意見の概要	市の考え方・対応
6	11	交通環境	別紙１芸術文化ゾーンの計画範囲を見ますと、県民会館を中心とした道路網は脆弱であり、ここに巨大な文化施設を建設しますと、駐車場問題だけでなく交通渋滞も懸念されます。 別紙２の芸術文化ゾーンにおける役割分担を拝見する限り、県・市連携文化施設を除外しても立派なゾーンが形成されると思われます。 繰り返しになりますが、県民会館の敷地に県・市連携文化施設を建設するのは反対です。 仮に県民会館付近で着工した場合、多くの工事車両が往復し、待機するダンプカーなどの大型工事車両も道路を塞ぐと想像します。千秋公園、明徳館図書館、旧県立美術館の利用者にとって大きな障害となることでしょう。 また、施設完成後は、行事前後の特定時間に、多くの車両が狭い通路を利用するため、渋滞や違法駐車が発生することでしょう。この交通問題は、施設利用者にとって大きな支障となります。現在でも、明徳館図書館に車で来られた方が、駐車できずに帰路につくケースもあるようです。 県民会館付近の道路網が脆弱であることはご承知の通りであります。一方通行の解消など、ゾーン内の道路網改良を今回の計画に盛り込んでは如何でしょうか。 公共交通機関を利用して県民会館に行こうとする場合、バス停から遠く、それなりの距離を歩行移動しなくてはなりません。足の不自由な方にとってはとても不便なことでありますが、バス停位置を千秋公園付近に設置する計画はございますか。 秋田において賑わっている場所の共通点は駐車場があることである。秋田は50年ほどかけて立派な車社会となった。これからはもっと立派な車社会を目指すべきである。中心市街地活性化、駅前賑わい創出など流れに逆らうことはキッパリ諦め、浮いたお金は道路整備費、駐車場整備費に廻してはどうか。 以上の背景の下、芸術文化ゾーン内に電気自動車用充電スタンドがあればお客様は滞留して、食事などにお金を使って下さることでしょう。自動車会社とタイアップして、充電スタンドのある芸術文化ゾーンを大々的に宣伝してはどうでしょう。 日本全国同じような方向に向いている今、秋田は既にある車社会を活かし、独自の道を目指してはどうでしょう。秋田はさらに立派な車社会となり、人口減少にも歯止めがかかることでしょう。将来、車社会に魅力を感じた県外人が転入してくるかも知れません。	施設近隣には、利用者の利便性を図るために一定程度の駐車場を確保するものですが、このほかについては既存の民間駐車場の活用を進めることとしており、これによってコンサートなど特定の時間帯に利用者が集中する場合に、利用される駐車場が分散することから渋滞の緩和にもつながるものと考えております。 芸術文化ゾーンについては、現県民会館所在地への県・市連携文化施設整備により、市文化会館機能が中心市街地に移行した場合は、多くの文化団体関係者や活動者が市街地を訪れることとなり、それを前提とした旧県立美術館の活用により、周辺の既存文化施設等との役割分担や連携による相乗効果が生まれ、広小路・仲小路からエリアなかいち、中土橋・千秋公園に至るまでの範囲を今以上に面的に充実させることができるものと考えております。 工事の際には、住民の皆様や周辺施設の利用者には一時的に不便をおかけすることにはなると思いますが、通行の安全に配慮してまいります。 隣接地へ整備する予定の駐車場と自動車の動線については、設計等の段階で検討してまいります。 本市では、人口減少に加え、高齢化も進むことから、第２次公共交通政策ビジョンにおいて、「市民のマイカーへの過度な依存を見直す」方向性を示しており、県・市連携文化施設の整備等については、幅広い年代の市民が様々な交通機関を選択できる現県民会館所在地が適していると判断したものです。 公共交通のあり方については、所管部局および関係機関と共に検討してまいります。
6	12	その他	整備計画案第12頁には、検討会等の経緯が記されていますが、平成27年９月までは建設場所が決定していなかったのです。それまでのパブリックコメントや意見交換会は、建設場所が決まらない状態で行われたものでしかありません。しかも施設の配置図を県民が目にするのは、同年８月４日付の魁新報です。図面を見て敷地が狭いことに気付いた県民も多数であり、それまで県民会館敷地に建設を支持していたものの、図面を見て翻意した人も多いようです。 したがって、県民会館敷地に建設を支持する割合も大きく変動しているのではありませんか。図面を明示した上で、県民会館敷地に建設するのが最善か否か、より多くの市民から意見を募るべきであります。	平成27年度に行った、25市町村での意見交換会等で具体的な候補地として県民会館所在地を挙げる意見も多くあったことも踏まえ、同地を建設予定地としたものです。 今回のパブリックコメントを踏まえてもそうした意見の趨勢については大きく変わっていないと思われます。

芸術文化ゾーン（旧県立美術館の利活用を含む）に係るパブリックコメント一覧

意見者	No.	区分	意見の概要	市の考え方・対応
6	13	ゾーン（充実手法）	「芸術文化ゾーン」の考え方および「千秋公園をバックグラウンドとした魅力ある芸術文化の薫り高い空間の創造」に賛同します。その空間を活かすために※芸術監督または専門家を選任し、そのノウハウを全体構想に生かす必要があると考えます。ご承知のように一般人がどんなに頑張っても生み出せないノウハウを専門家は持ち合わせております。失礼ながら、行政職だけで芸術文化構想等を推し進めることに不安を感じています。 （※参考） 博物館（美術館・天文台・科学館・動物園・水族館・植物園等）には博物館法により学芸員を置くこととなっております。さらに、欧米の博物館・図書館・公文書館においてはキュレーター（curator）が置かれております。ご承知の通り学芸員は国家資格であり、キュレーターにおいては監督という位置付けで大きな権限を有しており、大学の教授クラスがその職に当たっております。 「芸術文化ゾーン」の様なエリアに、学芸員やキュレーターのような監督を置くという制度はないようですが、秋田の文化を積極的に発信していくことを考えますと、※芸術監督やキュレーターに近い権限を持つ職制あるいは集団が必要であり、ゾーン計画段階から段階的に選任して計画を進めた方がベターと思料します。	No.１に同じ。 ご意見は今後の参考といたします。
7	14	ゾーン（考え方）	県都秋田市に県･市独自に同様な施設をつくっていたが、人口減少の中重複しないように連携することに異論はありません。しかし、この計画予定地は、真面目に現代秋田の中心市街地と呼べるのでしょうか？ 中心街とは昼夜を問わず大勢が行き交う場です！　広小路と公園土橋の交点を中心とした円内の八千七百六十時間の人通りデータはあるのでしょうか？ また、県市連携だと今までよりも多様な柵で目的が分散する事や危ない橋は渡らない安全志向によって、妥協し折り合いをつけると今まで通り！整備完成後、様々な地方都市で見かける類似的記念碑的「箱物」の出現が想定されます。 是非「違う！」と否定してください さらに「文化」を多用していますが　此の計画での文化とは「あきたらしさ」は排除する意味なのでしょうか？ 【略】 秋田生まれで秋田育った若者が将に来る「あきたらしさ」を作り出せる機会の第一歩で、この提供の場であるべきだと考えるのですが、この事業の失敗も将来の糧と逃げるのでしょうか！無責任な未来ではない秋田の将来の「秋田人育成」する年中無休の不夜城施設･ゾーンであることに期待したい。 【略】	旧県立美術館は、「芸術文化ゾーン」として面的に充実させるというまちづくりの方向性のもと、市の施設として活用することが最善と考えております。 また、人材育成など、若い世代、次世代が活用できる環境としても整備できるよう検討しております。 貴重なご意見として承ります。

芸術文化ゾーン（旧県立美術館の利活用を含む）に係るパブリックコメント一覧

意見者	No.	区分	意見の概要	市の考え方・対応
8	15	旧県美の利活用	旧県立美術館を利活用するための一番いい方法は、藤田嗣治の「秋田の行事」を元の場所に戻すことです。現県立美術館の「秋田の行事」を展示している二階展示室は、狭い、小さい、床が硬い、光が反射するなど超一級の絵画を鑑賞するには悪条件が重なり、さらに美術館そのものの面積が狭く、他の美術作品も展示してあり、「秋田の行事」をゆっくりと鑑賞する事ができません。藤田嗣治の「秋田の行事」は秋田県の宝です。その宝の最適な展示場所として作られたのが、旧県立美術館ですので、当然ですが、もう一度元に戻しましょう。 二番目の方法は、県民ホールの復活です。今までのように一階を県民ホールとして活用しましょう。新県立美術館にある県民ホールは、室内の大きさ、規模、配置など使い勝手が悪く、いままで旧県民ホールを利用していた団体の方々も新しいホールの利用はずいぶん少なくなっています。県民ホールが移動すれば、新県立美術館は、また形さえ違うものの建物全てが藤田の美術館となります。展示の面積も増えます。企画展も十分できます。 三番目の方法は、建物自体を展示物としてそのままの形で残しましょう。「秋田の行事」を展示していたホールを、現状のまま、壊さず、手を加えず、そのまま残しましょう。そのような条件でミニコンサート、演劇、表現、語り、などに活用しましょう。絵画、写真、など展示は禁止です。また一階の仕切りを取り外して駐車場にしましょう。何台可能か分かりませんが。秋田市内一つぐらい古い建物があってもいいでしょう。	旧県立美術館については、県が、文化財や美術品の保管・展示には利用できないとして現県立美術館に機能移転したものと認識しており、ご意見のような対応は困難であります。 本市では、県・市連携文化施設の整備を前提に、旧県立美術館をその外観や立地環境を生かしながら、秋田ゆかりのアーティスト等のアーカイブ保存、アーティスト・芸術家等のレジデンス（公開制作）と交流の場、市民による文化活動の発表や美大生の作品展示等ができるスペースなどとしての活用を検討してまいります。 ２、３番目のご意見は、今後の参考といたします。
8	16	ゾーン（考え方）	ゾーンについて　アトリオンの展示スペースの活用は驚くばかりです。市立美術館、岡田謙三記念館など入場者も多く、休日など大盛況です。ひとまず休憩を取りたいのですが、喫茶室がありません。残念です。それから仲小路をぶらつきながら県立美術館へと足は向くのでしょうか。むしろ千秋公園に誘導して公園の緑でひと息つきましょう。旧県立美術館の周辺は最適です。ベンチを置いて、あるいは室内の喫茶室で。それからまた歩きましょう。秋田市民俗芸能伝承館（ねぶりながし館）は、名前を変えましょう。かんとう館でいいでしょう。県外からくるお客様のために分かり易く。赤レンガ館などを回り、また、なかいちに戻ります。秋田駅を起点として、中高年にはとてもいい散策コースです。	県・市連携文化施設が現県民会館所在地に整備されることを前提に、中心市街地に文化施設を集約し、利用者が用途に応じて施設を選択したり、連携して使用できるようにすることで、市民の活動環境と利便性を向上させ、「芸術文化ゾーン」として面的に充実させたいと考えております。併せて、ゾーンから旧羽州街道や千秋公園への歴史の動線や、駅前との連携も意識しております。 ご意見は今後の参考といたします。

芸術文化ゾーン（旧県立美術館の利活用を含む）に係るパブリックコメント一覧

意見者	No.	区分	意見の概要	市の考え方・対応
9	17	ゾーン(考え方)	理念構築と創造 「Art=未来力」(未来を読み解き、未来を表現し、未来を創造する力) 「Art=福祉」(心を癒し、思考を深め、生きるエネルギー(ハピネス)を生み出す力) 「Art=外交の切り札」(国際社会での自己表現の最高のアプローチ) 「Art=プライドの創出」 「Art=秋田の未来を創造する力」 「箱」を創るのも大事！ しかし、何故、日本の美術館や文化施設から新たなクリエーションが生まれないのか？考える必要がある！ 過去に囚われず、意識改革による未来のグランドデザインが新たな「地方創生」を生み出す。 夢やヴィジョンは、多くの人が語るが、僅かな例外を除き、一過性に終わるのが、日本の芸術文化政策の過去の姿。 現実思考や現実対応の政策から抜け出し、未来に継続可能な、そして、未来創造可能な「理念構築」を急ぐべきである。	貴重なご意見として承ります。
9	18	ゾーン(充実手法)	クリエーティビティの高い人材育成=プロジェクト型 今、日本に必要なことは、秋田に必要なことは「クリエーティビティの高い人材育成」である。 【略】 自立教育と自立の共同体（コミニティ） 日本は、過剰な保護体質があり、自立社会とは程遠い。 「依存社会」から「自立社会」へ転換可能な「教学育」の「市民学び場」と「市民クリエーション創造・表現の場」が必要である。 「自立の共同体=自立のコミニティ」の創造が、日本の創生への道である。 保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学の「教学育」活動を支援可能な「共同体型の指導者育成=社会人のスペシャル先生（特認教師・講師）」の育成拠点の構築が重要である。 【略】 《秋田市グランドデザインプロジェクト》 秋田創生の切り札となるのが、街のグランドデザインであり、人材育成である。 街のグランドデザインのコンセプトの中核を成すのは、以下の秋田市グランドデザインプロジェクトである。 【略】	貴重なご意見として承ります。